

別紙 5

漢方方剤煎液・エキスの作製法（和漢医薬学総合研究所版）

A) 漢方診断学分野で臨床使用される漢方方剤煎液（1日量）の作製法

- 1) 漢方方剤を構成する全生薬の1日量を容器に入れ、水道水 600mL を加えて 30～50 分間加熱
- 2) 加熱終了直後、濾過
- 3) 最終容量を 300mL とする

B) 漢方方剤エキスの作製

実験で使用する漢方方剤は上記の方剤煎液作製法に基本的に準じ、下記の作製

- 1) ヒトの1日量と実験に必要な量に基づいて全生薬量を決定
- 2) 全生薬量の 5-10 倍容量の水道水（または蒸留水）と全生薬を煎じ機器に入れ、
とろ火で 50 分間加熱抽出（抽出開始時から 50 分間）
- 3) 煎液をガーゼ（2 枚重ね）で濾過
- 4) ろ液を凍結乾燥（抽出回数は 1 回）

C) 記録しておくべき情報

- ① 各生薬の入手先と Lot 番号
- ② 使用生薬の原植物名と使用量
- ③ 煎出方法
- ④ 抽出用液（水道水、蒸留水）
- ⑤ 煎出時間（分）
- ⑥ 濾過法（綿栓、濾紙、ガーゼ）
- ⑦ 凍結乾燥後のエキス回収率（収率）

注意

煎出時の水量は総生薬量によって異なるほか、煎出時間も、構成生薬の種類（例：附子や石膏などの有無）によっては調整する必要があります。さらに煎じ方（直火、煎じ機器）や濾過する方法の違いは抽出効率に影響しますのでご注意ください。不明な点は所内共同研究分担者にご相談ください。